

第2学年 英語科学習指導案

日時 平成16年12月7日(火) 5校時
 場所 2年生教室
 学級 2年生(男子13人、女子6人)
 指導者 教諭 浅沼美紀子

1 単元名
 Unit 6 Christmas Is Coming (NEW HORIZON ENGLISH COURSE 2)

2 単元について

(1) 教材観

この題材では、クリスマスの飾り付けやクリスマスカード、北半球と南半球の違いにふれる。また、「きよしこの夜」の誕生秘話にもふれるが、いずれも生活に密着したものである。理解しやすい題材である。特に「きよしこの夜」の物語では、危機に直面した場合でも、持てる知恵や技術を駆使して乗り越えようとする姿、また友人と協力して何かを作り上げることの素晴らしさが示されているので、辛さや苦しさから逃れようとする傾向がある生徒にじっくりと読みとらせたい。文法事項としては、数量や存在を表現する There is [are]~の肯定文と疑問文、そして動名詞を扱う。これらの表現は、大変有効な表現であるにもかかわらず定着しにくいので、実体験や実生活に結びながら学習し、表現活動へと進めていきたい。

(2) 生徒について

生徒は授業中は落ち着きがあり、学習にも真剣に取り組むことができる。「話すこと」に対する興味関心が高く、ペアワークでも日本語を使わないよう意識して取り組んでいる。2学期後半から学級に掲示している英語のフレーズを友人間で用いる光景も多く見られるようになった。次に「聞くこと」に興味関心を持っている生徒が多い。しかし実際の耳にしている英語の量は少ないと感じる。その割にはリスニングテストを好んでいる生徒が多く、英検などでも他の技能より得点している。より英語を聞きとらせるために音声変化に慣れさせたり、チャンキングを取り入れるなどの取り組みを入れていきたいと考えている。「書くこと」に関しては、学習定着度状況調査などのテストの結果から「書く」力が劣っているという結果はつきり出てきたので、改善方法の一つとして、ウォーミングアップの中で各学年の教科書から抜粋した基本文、重要な語句を含む文を読み、だり、書いたりする活動を取り入れた。時間を設定して取り組むことで達成感を得ている生徒もいる。また、家庭学習で継続的に取り組んでいる生徒は半数に満たない。「読むこと」では、授業中は音読に比較的時間を多くかけているせいもあって集中して取り組んでいる。全体で読むときには発音や連結、イントネーションなど意識して読んでいくように指導している。また、短い本文を暗唱させ対話練習をさせるために、シャドーイングを取り入れることもある。また、座席は教え合い学習ができて、ペアワークが抵抗なくできる友人関係で行わせるため、生活班を基準に教科専用の座席で行っている。

(3) 指導観

この単元ではクリスマスを共通テーマにしていて、中学生がなじみやすい題材である。Starting Out で新出文法 There is [are]~ 構文を扱う際には、1年生で学習している前置詞句についての復習もしながら、身近な場所の情景を表現できるようにさせたい。すでに異なる意味の there を学習しているので、音読や繰り返し書く練習で構文を定着させていきたい。Dialog では There is [are]~ 構文の疑問文とその応答については、be 動詞が使われている文の疑問文の形はあまり抵抗なく理解できると予想できる。説明の後には音読練習やペアワークで本文の対話練習をしたあと、身近な事柄を新出文型を使って表現できるよう発展させていきたい。Reading for Communication では動名詞の導入を先に行い、「きよしこの夜」の誕生の秘話をじっくり読ませ、登場人物などの心情を読みとらせていきたい。ここでは臨場感のある音読を目指し指導していきたい。

3 単元目標および評価規準

(1) コミュニケーションへの関心・意欲・態度

・新出表現を用いて積極的に対話したり、自分の考えを表現しようとする。

(2) 表現の能力

・新出表現を用いて、適切に相手に伝えることができる。
 ・基本文を用いて、自分の考えや情報を伝えたり、書いたりすることができる。
 ・発音、区切り、抑揚などを意識して音読することができる。

(3) 理解の能力

・物語を読みとり、登場人物の心情などを適切に読みとることができる。
 ・相手の話す英語の情報を正しく理解できる。

(4) 言語や文化についての知識・理解

・There is [are]~ 構文の形(肯定文、疑問文とその応答)・意味・用法を理解できる。
 ・動名詞の形・意味・用法を理解できる。

4 単元の指導・評価計画(6時間扱い)

時間	学習内容 (指導内容)	評価規準 評価方法			
		コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語・文化についての知識・理解
1	p64 There is [are]~ 構文(肯定文)の用法理解とそれを用いての表現活動	・ There is [are]~ 構文(肯定文)を用いて絵の様子を説明しようとする。 観察	・ 発音や抑揚を意識して言語活動をしたり音読できる。 観察・発表	・ There is [are] 構文を含む文の意味が分かる。 観察、シート	・ There is [are] 構文(肯定文)の用法や意味を理解できる。 言語活動の観察
2	p65 There is [are]~ 構文(疑問文とその応答文)の用法の理解とそれを用いての表現活動(本時)	・ There is [are]~ 構文(疑問文とその応答文)を用いて間違いを恐れず積極的に対話しようとする。 観察	・ 教科書の本文の内容が伝わるように音読することができる。 ・ There is [are]~ の疑問文とその応答文を用いて、対話活動を行うことができる。 観察・発表		
3	p66 動名詞の用法理解とそれを用いての表現活動	・ 動名詞を用いて様々なことについて表現しようとする。 観察	・ 動名詞を目的とする文や主語とする文を用いて表現できる。 観察・発表		・ 動名詞を目的とする文や主語とする文の用法や意味を理解できる。 言語活動の観察

4	p66 本文の内容理解 Reading for communication		・発音や抑揚を意 識して言語活動をし たり音読できる。 観察・発表	・「きよしこの夜」 の誕生の経緯を知 り、登場人物の心情 などを読みとること ができる。シート	
5	p67 本文の内容理解 Reading for communication		・発音や抑揚を意 識して言語活動をし たり音読できる 観察・発表	・物語を読み、場面 の変化や登場人物の 心情などを読みとる ことができる シート	
6	まとめと単元テスト				

5 本時の指導

(1) 授業の構想

ウォームアップの単語カードを用いての活動では be 動詞の疑問文が含まれる既習文を練習させ、本時の課題である There is 構文の疑問文の形に気づかせる手だてとしたい。文法事項の説明の後、ALT と分担して全員に質問し、答え方の定着を図りたい。教科書の Dialog で新出語句の確認や内容把握、そして音読と進めていきたい。音読の場面では本文の量が多くないので、全体で練習させ、ペアでシャドーイングをし、暗唱して対話練習をし、発表させる段階まで進めていきたい。言語活動では部屋の絵を用いて相手の部屋の様子をたずねて、自分と同じ部屋の絵を持つ人を探さがす内容で、制限時間の中で一文でも多く話したり、聞いて答える力を定着させたい。支援が必要な生徒にはなるべく個別で指導できるように ALT と分担して机間指導を心掛けたい。まとめとしてスピードライトニングで本時の基本本文を書いて練習させ、書くことの定着も図りたい。

(2) 本時のねらい

There is[are]~構文を用いて、間違いを恐れず積極的に対話しようとする。

(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)

教科書の本文の内容が伝わるように音読することができる。

There is[are]~の疑問文とその応答文を用いて、対話活動を行うことができる。(表現の能力)

(3) 本時の展開

過程	学習活動	生徒の活動	教師の指導・援助・留意事項	教具等	具体的評価規準 方法
導入 9	1 あいさつ	1 曜日、日付、天気 を答える。	曜日、日付、天気 を尋ねる(ALT)		
	2 warm up	2 単語カードを用 いて be 動詞の復 習をする。	単語カードで be 動詞を含む文の 復習をさせる。	タイマー	
展 開 36	3 学習課題の 把握	3 教師(JTLとALT) の対話を聞き、 課題を把握する。	クリスマスに関 する対話(JTL,ALT) から新出文を導 入し、課題を把握 させる。	ピクチャー カード	
	There is (are)~の疑問文とその答え方を覚えよう				
展 開 36	4 基本本文の 説明と口答 練習	4-(1)前時を振り返 り There is[are]~ の意味・形を確認 する。 4-(2)全体で基本 本文の口答練習 をしたあと一人 ずつ教師の質問 に答える	・ Is[Are] there~? を用いた文で全 員に質問し、答 え方を確認する。 * 答え方があや ふやな時は質 問を繰り返したり 、質問を代えて 行う。 ・ フレーズレベ ル、文レベルで 新出語句の発 音を練習させる。	紙板書 ピクチャー カード	
	5 本文の内容 把握 (1)新出語句 の発音練習 (2)本文を聞 く (3)内容把握 の確認 (16) 6 本文の音 読練習 (10) 7 言語活動 (10)	5-(1)単語の発 音、意味を確認 する。 5-(2)教師のモ デルリレーン グを聞く。 5-(3)教師の英 語を聞いて T・F テストに答え たり、本文の内 容にかかわる質 問に答え本文 の内容把握をする。 6 教科書本文の 音読練習をする。 (1)全体練習 (2)個人練習 (3)全体練習 (4)ペアワーク (5)シャドーイ ング (6)発表 7、There is[are] ~の疑問文と応 答文を用いて対 話活動をする。 (1)モデル対話 を聞く。 (2)活動 (3)発表 生徒-生徒 生徒-ALT	・ T・F・?のい ずれかで答えさ せる。(教科書・ 閉本)日本語に よる Q and A で内容を確認 させる(教科書・ 開本) ・ 音読練習を させる。 ・ 発音、区切り 、抑揚等を意 識するよう指 示する。 ・ 指名して発 表後、教師に よる評価を行 う。 ・ 活動の内容を 説明し、モデ ル対話をする。 JTL-ALT ALT-生徒	フラッシュ カード リズムマ シーン ハンドア ウト	6 観察・発表 A 本文を暗唱し て、意味が分か るように発音、 区切り、抑揚 などを意識して 本文を正しく 読むことができ る。 B 意味が分かる ように発音、 区切り、抑揚 などを意識して 本文を読むこ とができる。 C 机間指導中 で、生徒に指 さし読みをさせ 、つまづいて いるところを 個別に支援す る。 * 指さし読み とは教科書の 単語や文を指 さしながら、 聞いたり読ん だりする活動。 7 観察・発表 A there is[are] ~の疑問文と 応答文を用い てALTやJTL と会話を継続 させることが できる。 B モデル対話 を参考にして there is[are] ~の疑問文と 応答文を用い て対話できる。 C 疑問文の例 を提示して繰 り返させるな ど個別に支援 する。
終 末 5	8 スピード ライティ ング 9 本時の 評価 10 次時の 予告と あいさ つ	8 本時の基本 本文を集中し て書いて練習 する終了後裏 返し同じ文を 書く。 9 自己評価 カードで本 時の学習を 振り返る。 課題と次の 授業の確認 する。	・ 本時の基本 本文を2分 間書いて練習 させる。 本時の学習 を振り返さ せる。	ハンドア ウト タイマー 評価カ ード	

(4) 板書計画

Tuesday , December 7th sunny

Today's Target

There is [are] ~の疑問文と
その答え方を覚えよう

There is a card on the wall.
Is there a card on the wall?
ありますか カード テーブルの上に
Yes, there is./ No, there is not.
はい、あります。 / いいえ、ありません

There are some cards on the wall.
Are there any cards on the wall?
ありますか 何枚かカード テーブルの上に
Yes, there are./ No, there are not.

地図